

2019年度 大阪バイオメディカル専門学校 学校自己評価

評価点
5=達成している(80%以上)
3=普通(40%以上~60%未満)
1=全くあてはまらない(20%未満)

4=ほぼ達成している(60%以上~80%未満)
2=やや当てはまらない(20%~40%未満)

I. 教育理念・目的・育成人材像

番号	設問	評価平均点	設問に対する評価の根拠・課題・改善方法等
I-1	教育理念は定められているか	4.3	「為世為人」を常に意識して教育に携わっている。 どの学科の学生も専門技術を身につけ就職しており、世の中の日常的な「生きる」を支えてくださっているように見受けられるため。 教育理念は定められており、HP・パンフレットでも一貫して公表されている。
I-2	学校の特色が明確であるか	3.9	各学科ごとの特色は明確だが、細かい強みとしてはまだまだ改善する余地がある。 健康・医療に関わる分野での活躍を目指すための教育を行っている。 あえて言えば、本校の学生は大人しい。がむしゃらに勉強するでもなく、しっかりとした目標を定めている学生も少ないよう。 留学生と日本人学生との交流授業が行われ、学生同士の交流ができています。
I-3	学校の中長期計画を立てているか	3.5	中期計画を立てているが、不測の事態が起きて見直しが必要となった。 通年だけでなく、上半期・下半期と目標計画を立てて、運用を行っている。 学生数増加をにらんだ改装・移転など、数年先を見据えた議論が出ている。

II. 学校運営

項目	設問	評価平均点	設問に対する評価の根拠・課題・改善方法等
II-1	運営方針は定められているか	3.8	進路指導の体制を整備し、教員育成にも力を入れている。 講師は毎年度、目標設定を行い授業や進級、就職に対して取り組んでいる。 運営方針は立てられており、教職員ミーティングで共有している。
II-2	事業計画は定められているか	3.8	毎年、月別の計画を立て運用。出席率、進級・卒業率、など目標設定を達成するための取り組みについて提案・実行されている。 協議の上で毎年定められている。
II-3	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3.5	意思決定機能は非常に効率的。 組織図通りに実践されている。 組織として機能している。 学則の整備と理事会での決議理事会やそれぞれの組織で会議をし、決定されている。
II-4	人事や賃金面での処遇に関する制度は整備されているか	3.6	理事や校長との面談の機会を設定されている。 整備されている。 年度初めに個人目標設定を行い、成果に基づく考課を行っており、人事・賃金面での処遇に関する制度は整備されている。
II-5	意思決定システムは確立されているか	3.4	学科によって異なっている面が見受けられる。 学科内での役割等は確立されている。 各自が組織の一員である事を自覚している。 組織図の公開、理事会の運営教育・教学・事務局・入試広報と各組織内での役割が確立し、連携されていると思われる。
II-6	情報システム化等による業務効率化が図られているか	3.5	ペーパーレス化はもう少し進められると思う。 システム以外の所ではまだ効率化を図れる余地がある。 学生に記入してもらう書類が紙ベースなことが多かったように思うが、ファイルを作成する際に統一したり、学生にフォームを使ってもらうことで少しずつ改善していっているように思う。

III. 教育活動

項目	設問	評価平均点	設問に対する評価の根拠・課題・改善方法等
III-1	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3.5	非常に明確で、業界で活躍されている卒業生も多数いる。 実習を多く取り入れ、技術面に秀でた人材の育成に努めている。 現時点では正しい方向付けだと思いが、今後IT化が進むと予想し、医療機関のニーズを情報収集していかなくてはならないと思う。 専門分野の求める人材像や近年の傾向などを聞き取り、適した人物の育成に向けて取り組んでいる。
III-2	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	3.5	高いレベルで精神保健福祉士国家試験の合格率を維持できている。 勉強が不得手な学生であってもモチベーションがUPするような実習指導を行っている。 現場で求められていることが何かを把握し、授業内容を変更して対応している。 目標達成の為にしっかり指導している。
III-3	カリキュラムは体系的に編成されているか	3.7	体系的で、現在、精神保健福祉士の新しいカリキュラムに関して対応中。 クラスごとの到達目標レベルにあったカリキュラムになっている。 段階に応じてステップアップできるよう、また各分野の中で重要視されている知識を学べるように配慮されたカリキュラムを構成している。
III-4	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	3.7	来年度から精神保健福祉士の新しいカリキュラムが始まるので、カリキュラム編成を早急に考えなければならない。 毎年カリキュラムの見直しを行っている。 レベル別に合わせたクラスごとにカリキュラムを作成している。 各分野の現場の方の意見も伺い、カリキュラムの編成・見直しをしている。

Ⅲ-5	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.4	校長、学科長等の授業参観を定期的実施。 学生へのアンケート、他の先生方の授業見学などを行いフィードバックを受け取っている。 各学科毎で、学生の満足度や成績などを勘案して評価を行っている。
Ⅲ-6	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.7	現場経験のある講師がいる。 実務経験のある講師の採用を積極的に行っている。 色々な職を経験された先生方がいる。 各科目において、科目に関連した現場での実務経験を積まれた講師の方が着任している。
Ⅲ-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.6	基準は明確です。 出席点、授業での成績の評価の配分が明確であり、学生にも周知されている。
Ⅲ-8	資格取得の指導体制はあるか	3.9	精神保健福祉士については、アフターフォローとして卒業生にも指導しております。 カリキュラムの中に対策講座として「特講」が配置されており、卒業後のフォローも実施されている。 バイオ学科・バイオ技術学科では、中級バイオ技術者認定試験を必須検定として設定し、指導を行っている。

IV. 教育成果

番号	設問	評価平均点	設問に対する評価の根拠・課題・改善方法等
IV-1	就職率の向上が図られている	3.7	バイオ学科・医療事務総合学科・医療福祉心理学科では今年度100%を達成できました。 就職に対する意識付けは入学時から始めてもよいと考えている。 就職を希望する学生への説明会などが複数回行われている。 面接指導・書類の作成指導など細かなサポートを行い高水準の就職率の安定を図っている。
IV-2	資格取得率の向上が図られている	3.8	今年度も精神保健福祉士ルート別合格率は全国1位でした。(4年連続) 国家試験受験資格取得までの過程を明確に示しており、受験対策も講じている。 授業内ではもちろん、特講や再受験のサポートを実施している。
IV-3	退学率の低減が図られている	3.4	フォローアップの改善を図っている。 学年間の交流を企画したり、入学後ミスマッチを無くすための体験授業の設定など通信出身学生の増加に伴い、学校になじめない学生が増えている個別面談や保護者への連絡等で対策は行っている。 担任制の実施とスクールカウンセラーによる学生相談室の設置。
IV-4	卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	3.3	精神保健福祉士実習指導者として活躍されている卒業生も多いです。 卒業生のほうから相談にくることも多く、就業先企業からも卒業生の状況について連絡を頂くこともある。 卒業生の就職先フォローアップを行っている。

V. 学生支援

番号	設問	評価平均点	設問に対する評価の根拠・課題・改善方法等
V-1	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	3.8	学科講師が就職指導全般を行っているが、技術指導と差別化するために、就職課などがあれば一層良いかもしれません。 就活が始まる前の専門教員の就職指導や、活動開始後の担任教員による細やかなフォローなど体制が組まれている。
V-2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	3.8	臨床心理士による学生相談、担任講師による面談の機会が十分に保障されています。 担任制によって学生が相談しやすい環境を作り、また学校カウンセラーを配置し悩みに対する支援体制を作っている。
V-3	学生の経済的側面に対する支援制度が全体的に整備され、有効に機能しているか	3.6	経済的事情を抱える学生も多い中、きめ細かな対応ができていると思う。 整備されている。 就学支援金制度の導入、学費の分納・延納、奨学金制度に対応している。
V-4	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	3.7	学校を休んだ際は、電話連絡し、病院へ一人でいけない学生と一緒に病院へ行ったりしている。 健康診断の実施や、カウンセラーや担任の連携のもとメンタル面での日々の健康ケアも行っている。
V-5	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	3.5	課外はアルバイトをしなければならない学生も多く、支援体制を整備するのは難しいが、単発のボランティア活動の推奨はできたと思う。 学校全体の行事の他に学科毎でも課外活動を行い、活動を通じて専門知識の習得や人間力の向上を図っている。

V-6	学生寮等、学生の生活環境への支援が行われているか	3.5	提携先の不動産業者に学生のニーズをしっかりと伝えている。 学生専用のマンションなどの紹介で生活環境への支援を行っている。
V-7	保護者と適切に連携しているか	3.5	欠席が続いたり、提出物が遅れた際には速やかに保護者に連絡を取って対処している。 問題が起きた時には連絡するようにしている。 学校生活において気になる学生へは、保護者の方と情報のやりとりを行う他、保護者との面談もできる体制にある。
V-8	卒業生への支援体制はあるか	3.2	必要・要望に応じて支援しております。 精神保健福祉士国家試験を目指す卒業生にはフォローアップしている。 卒業生から相談があれば適宜。 就職初年度の学生は、就職先フォローアップ訪問の実施。

VI. 教育環境

番号	設問	評価平均点	設問に対する評価の根拠・課題・改善方法等
VI-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	3.0	充実した実験機器。 授業や学生指導などに必要な教室は確保できているが、十分と言えるほど余裕がある状態でもない。 レーザー顕微鏡やアミノ酸分析器など最新の設備を導入し、実践教育に必要な環境を整えている。
VI-2	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.5	実習は全学生必修で行っている。 今後、実習前指導・実習後指導の拡充を図りたい。 就職インターンシップ等の提案を行っている。 各学生に希望調査のもと実習先の確保を行い、実習中も訪問を行うなどして指導を行っている。
VI-3	防災に対する体制は整備されているか	3.4	毎年避難訓練をしている。 避難訓練は年1回あるが、留学生の避難が少し心配。 毎年避難訓練を実施し、館内の防災設備の説明などを実施している。

VII. 学生の募集と受け入れ

番号	設問	評価平均点	設問に対する評価の根拠・課題・改善方法等
VII-1	学生募集は適切に行われているか	3.8	適切に行われている。 オープンキャンパスに実際の講師が授業を担当している。 過大な宣伝や強引なアプローチをせずに、適切に募集を行っている結果は伴っているものの、これからも同じようにするためには更なる努力が必要だと思う。
VII-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.8	正確に伝えられているからこそ、定員が満たされているのだと思う。 常に教員の方と意見交換し、正確に伝えられるよう努めている。 学科会議などで在校生の授業の様子、就職状況等を入試広報部と共有している。
VII-3	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3.8	全学科共通して学校長により面接を行っている。 入試方法により異なるが、面談、面接、筆記試験を実施している。 学習意欲、経済的基盤の確認面談や試験で適性を判断し、受験者に対し公平な選考を行っている。
VII-4	学納金は妥当なものとなっているか	4.00	適切な教育を維持していくためには必要な金額だと思う。 学習の内容を鑑みると、妥当だと言える。 実習設備への投資など学生に十分に還元されている

VIII. 財務

番号	設問	評価平均点	設問に対する評価の根拠・課題・改善方法等
VIII-1	中期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	4.8	安定していると考えます。
VIII-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.7	予算・収支計画は妥当であり、計画に基く経費の使用が行われている。
VIII-3	財務について会計監査が適正に行われているか	5.0	行われている。
VIII-4	財務情報公開の体制整備はできているか	5.0	できている。

IX. 法令等の順守

番号	設問	評価平均点	設問に対する評価の根拠・課題・改善方法等
IX-1	法令、設置基準等の順守と適正な運営がなされているか	4.5	規則に則って運営している。 法令に則った運営がなされている。
IX-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0	学生の個人情報を扱うので、その対策については十分であると考える。 各部門ごとに対策を講じている。 講習等が実施されている。
IX-3	(学校)自己点検・(学校)自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.6	自己評価は実施しており、問題点についても改善に努めている。 毎年、自己評価の実施を行い改善・改良に努めている。 毎年少しずつ改善している実感があり、働きやすい職場だと感じている。
IX-4	(学校)自己点検・(学校)自己評価の結果を公表しているか	4.0	ホームページにて情報開示しており閲覧できるように公開されている。 公表できている。

X. 社会貢献

番号	設問	評価平均点	設問に対する評価の根拠・課題・改善方法等
X-1	学校の教育資源や施設や活用した社会貢献を行っているか	3.8	大阪トリアスロン実施の際の水質調査、中央区民まつりのブース出展、西成区の炊き出し等で社会貢献を行っている。 地域に根付いた活動を実施。
X-2	学生のボランティア活動を推奨し、支援しているか	3.8	ボランティア活動に関する情報は随時提供し、必要な場合は活動先まで同行して学生のボランティアへの意識を高めるようにしている。 大阪マラソンの参加、地域清掃や炊き出しなど、ボランティアに関する情報の掲示を行い、希望者に対して支援できる体制を整えている。